

# 新建・寺子屋(モダニズムの研究)260 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2019.4.10

藤森著『日本の近代建築(上、下)』分析を終えて 2  
とりあえずの企画「三沢研の仕事をスライドで」第2回

話：三沢浩

■ 寺子屋 260 は 4 人の参加で、三沢研の仕事をスライドで見ました。

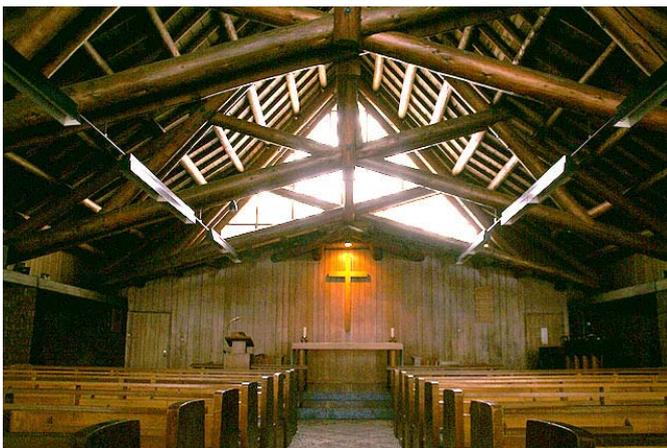
■ 1950 年代 60 年代、建築はいくつかの建築家の周りを巡るようになって様々な展開を自力で開発してきました。そうした人たちはお互いに関わり合い、影響しあいながら、空間の構成原理を探っているようです。

■ それは、現在とは大きく異なるようにも見えます。今は技術、材料から用途、機能、環境といった構成概念がそれぞれに独立して大きく展開しつつ、常に現実から裏切られるような、不安定な状況の中に漂っているかのようです。

■ だからこそ、もう一度、つくることに真摯に取り組んできた軌跡を見直していくことから、現代に通じる建築への取り組み方を探っていきたいと思います。



聖アンセルム教会 聖壇



札幌聖ミカエル教会

新建・寺子屋(モダニズムの研究)260

2019年4月10日(水) 話：三沢浩

藤森著『日本の近代建築(上、下)』分析を終えて 2  
とりあえずの企画「三沢研の仕事をスライドで」第2回

1. 前回のスライド(第1回)への反省
  - 1) 史的順序、大学卒業、A.R.事務所づとめ、アメリカ行き の 区別
  - 2) アルバイトの住宅の特徴、山中湖山荘は目標に不足あり
2. 今回スライド(第2回)の内容はレーモンドの許で働いた仕事(8年間+α)
  - 1) アメリカに行って3年あけ、戻って再び少々働いた
  - 2) A.R.の『自伝』編集が主だが、相談のあった図も描いた(神言神学院、南山)
  - 3) 独立したのは1969年以後/吉村順三の許で「奏楽堂」を1年(愛知芸大)
3. 担当した仕事も、写真のあるもののみを説明したい(A.R.事務所)
  - 1) 1955年4月入所、沖縄米軍基地の建物をアルバイトで図面引き
  - 2) 1955年10月に正式に採用され、レーモンドの指導をうけた
  - 3) 当初は「教会」の連続、特に「聖壇」まわりの絵図を描いた
4. A.R.事務所での担当は「教会」から「群馬音楽センター」まで
  - 1) RC造教会は「聖アンセルム」「聖パトリック」「聖ポール教会」「ICU教会」など
  - 2) 木造教会は「聖アルバン」「聖ミカエル(札幌)」「ルーテル(延岡)」など
  - 3) 住宅やビル、、プライス邸、第百生命ビル、ICU住宅、同図書館
  - 4) A.R.の不在(アメリカ滞在)の時は、会社の仕事、外部への派遣もあった
5. 次回は独立後の「三沢研究室／三沢建築研究所」の仕事のスライドで
  - 1) 主として「長野市」の公共建築から始まった
  - 2) 「スケートセンター」「蔵書閣」「公民館」「2つの体育館」など
  - 3) 信州大学工学部に2年まで(長野市内)いたから、その関係から生まれた
  - 4) 「墓地公園」づくりに始まる「野外彫刻賞」作品展示は次の機会に
  - 5) あるいは「A.R.のために」の後半で「南山」「群馬音楽センター」などを加えるか(吉村の「愛知芸大」への参加も)

次回 <寺子屋 260> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読

近代建築から現代建築へ―「三沢研の仕事をスライドで」第3回

話：三沢浩

2019年5月15日(水)

PM 7:00～

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円 問合：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com